

「水平社宣言」とは

1922（大正11）年3月3日、部落差別に苦しんできた人々は、人間としての平等を求めて、「全国水平社」を結成しました。京都岡崎公会堂で行なわれた創立大会には、全国各地から、3000人もの人々が集りました。

ある人はムラの仲間たちが少しずつ集めた旅費を大切にふところにしまい、また、山間部に住んでいるある人は100キロも自転車をこぎ、夜汽車に乗って、当日の朝にやっと京都に着いたといいます。このような多くの人々が集った会場は、熱気にあふれかえっていました。そしてその創立大会で採択された下記の「宣言」が、日本最初の人権宣言と言われる「水平社宣言」です。この史実は、小中学校の教科書にも載せられています。

※この宣言の中には、「特殊部落」や「エタ」という言葉がありますが、この言葉は差別語であり、本来は使われるべき用語ではありません。全国水平社創立大会では、差別されてきた人々が、差別から解放され、人間が尊敬される社会をつくるために自らが運動を進めるという強い意志のもと、あえて当時浴びせられていた差別語を使っています。この言葉に込められた差別する側の差別意識の変革を水平社は求めていったのです。

差別からの解放を求めて

明治時代になり、江戸時代の身分制度は廃止されました。しかし、部落差別がなくなったわけではありません。その理由は、主に次の2点です。

○明治政府が、長い間差別に苦しんできた人々への差別をなくす具体的な政策をとらなかつたこと。
○長く続いた慣習や差別意識は引き継がれていたこと。

このため、結婚や就職・居住などに関する差別や貧困は根強く残りました。そこで、「差別されるのは自分たちに原因があるのではない。差別している社会が変わるべきだ。」と考える人たちが、仲間とともに自ら立ち上がり、人間を尊敬することによって、平等な世の中をつくろうと結成したのが、「全国水平社」です。

山田少年の涙の訴え

水平社創立大会では、16歳の山田孝野次郎さんが少年代表として演説を行いました。当時の記録には次のように書かれています。

「私は、お役人や学校の先生のお話を聞きました。その方は、『平等が必要』と叫び、自分は差別してはいないと言われます。しかし、教壇に立つ先生の瞳は何と冷たいものでしょう……。」

それから自分が受けてきた差別体験を、時には声を詰まらせ、涙を流しながら報告しました。会場のあちこちで泣

宣言

全国に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。
長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されて来た罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集 團運動を起せるは、寧ろ必然である。
兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代償として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲 笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者がその荆冠を祝福される時が来たのだ。
吾々はエタである事を誇り得る時が来たのだ。
吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。
水平社は、かくして生れた。
人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日

全国水平社創立大會

き声が聞こえ、多くの人が手を取り合つて涙を流しました。

山田少年は、最後には力強く呼びかけました。
「私たちは泣いている時ではありません。大人も子どもも一斉に立つて、この嘆きのもとを打ち破ってください。光り輝く新しい世の中にしてください。」

全ての人の平等をめざして

水平社宣言は、「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という文で締めくくられています。この言葉には、部落差別をはじめあらゆる差別をなくすことで、全ての人が平等で生き生きと過ごせる世の中をめざすという想いが込められています。だからこそ、「日本初の人権宣言」と言われるのです。

この運動は、当時厳しい立場に置かれていた労働者の人々を励まし、その運動を後押しし、自ら立ち上がる勇氣を与えていきました。また、水平社宣言の「人間はいたわるべきものではなく、尊敬されるものだ」という考えは、さまざまなる人権問題を解決するための運動に、今も反映されています。

水平社宣言が出されて、来年で100周年。全国水平社がめざした社会の実現のために、私たち一人ひとりの努力が求められています。